



正しい・美しい言葉→届く・響く言葉へ

私自身が勉強になりました！

小学生の私を渡辺先生と出逢わせてあげたい・・・”

またまた勉強になりました。

最後は涙で締め括りました。

渡辺先生 さすがです。

ペンネーム「ディナー」さんより

「公園のお話」と「物のストーリー」の号について、連続でお便りをいただきました。

ディナーさん、誠にありがとうございます。

こんな風に、一言を贈ってもらえることが書いているものにとってどれほどありがたいことか。

届けたいと思った言葉が届いた時って、本当に嬉しいですね。

どんな物事を伝える際にも、**できる限り子どもたちの心に響く形で届けたい**というのが私の教育者としての願いです。

一方で、学校現場においてはともすれば「正しさ」や「美しさ」などが重視されるあまり、子どもたちの心に届きにくい言葉が多く使われている現状も存在します。

例えば「みんな仲良く」は、全国津々浦々の学校で今もよく伝えられている言葉です。

みんなが仲良くという姿を目指すことは、一面的には正しいのでしょうか。
みんなが仲良くという姿は、きっと多くの人の目に美しく映るのでしょうか。
誰しも好んで争いや諍いを行うわけではありませんし、毎日仲良く平和に暮らせればそれは素晴らしいことだと多くの人が思うはずです。

一方で、この正しくも美しい言葉が、現場ではほとんど教育的な効果をもたらさないことを、多くの先生は知っています。

なぜならば、「仲良く」の言葉の定義にもよりますが、そもそも「みんな」が「仲良く」という状態は、通常では考えられないことだからです。

30人もの子どもが集まるクラス。

100人以上の子どもが集まる学校。

これだけ大勢の人が集まるコミュニティにおいては、小競り合いがあれば、ぶつかることだってあります。

それが、自然だし普通です。

当たり前のことです。

そして、そういう一つ一つのことを乗り越えていくことには、極めて大きな教育的意義があります。

それを一斉に「みんな仲良くしなさい」と言ってしまう事は、どこか不自然さというか、ひずみを生じさせてしまう一因になると思っています。

そもそも、大人の世界で「みんな仲良く」がおよそ実現不可能なことも、大人のみなさんならよくご存じのはずですよ。(笑)

つまり、「みんな仲良く」という言葉は、美しくて正しいのだけれど、残念ながら子どもたちに届きもしなければ響きもしないのです。

にもかかわらず、この言葉は現場で使われ続けています。

それどころか、

「なんで仲良くできないの！」

「仲良くしなさいっていつも言ってるでしょ！」

と厳しく指導する際の材料としても使われたりしています。

ここまでくると、これはもう正しさや美しさという名の暴力に近いとすら私は思ってしまいます。

そのように指導され続けた子が、「みんな仲良く」という言葉にアレルギー反応すら起こすようになることもあるでしょう。

同じように学校現場では美しくも正しい直球ばかりが放られることが多いのです。

だからこそ、意外なところから意外なコースで届く言葉の“球種”をふや

したいと日々思っています。

ですから、日々読書をしている時も、「これは子どもたちに届きそうだな」とピンときたフレーズはすぐさまストックするようにしています。

そして、それを渡す絶好のタイミングが来た時に、相手が最も受け取りやすい方法で手渡せることができる姿を思い描きます。

その理想が現実のものとなった時には、それは大きな幸福感が生まれます。届けたい言葉が届いたからです。

渡したいプレゼントを受け取ってもらえたからです。

そうした内容をまとめた「対話力」の本を先月出版したところ、ちょうど昨日「東洋経済 on-line」の特集記事で取り上げていただきました。



教育の分野で活躍する専門家が選ぶ「学校教育関係者」にお薦めの本 10 冊

GW を知識とスキルのアップデートに役立てよう

<https://toyokeizai.net/articles/-/638870>

現在、4-1でも、どのタイミングでどんな内容を伝えるかということに楽しみながらこだわって取り組んでいるところです。

その中で今一番驚いているのは、子どもたちの受け取り方が日に日にうまくなっていることです。

それはもう、明らかな変化です。

見違えるように話の聞き方が素晴らしくなったこともそうですが、話を聞いた後に「実行」に移せる子がどんどん増えてきていることに驚いています。

ちなみに、この「話の聞き方」について、棋士の羽生善治氏は次のように述べています。

三流は人の話を聞かない。
二流は人の話を聞く。
一流は人の話を聞いて実行する。

私はこれを読んで、ポイントは2つあると思いました。

一つは、「素直さ」です。

三流は、そもそも聞こうとしていない。

二流は、人の話を聞いても実行しない。

つまり、何も変えないでいようとする「頑固さ」があります。

つまり「素直さ」がないのです。

二つ目のポイントは、「実行力」です。

実際の行動に起こすという点こそが、成長・成功における大きな分かれ目なのでしょう。

うまくいくかどうかはわからない。

けれど、まずは試しにやってみる。

素直さに加え、このフットワークの軽さもまた人の成長の上で重要な条件なのだと感じました。

そして、羽生善治の話にはもう一行、続きがありました。

これです。

超一流は人の話を聞いて工夫する。

すでに、4-1の中には一流どころか超一流も生まれ始めています。

話を聞いて実行するだけでなく、自分なりに工夫し始めている子たちがいるのです。

超一流の話の聞き方に負けぬよう、私も自分自身の伝え方を日々磨いていきたいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

